



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 父兄会秋季部会が開催されました

教育委員長 井上美津子

平成24年度の父兄会秋季部会は、10月20日(土)の午後1時より開催されました。秋季部会ではご父兄と指導担任との個別懇談が中心となっています。歯学部は、最初に歯学部全体会が旗の台校舎4号館6階600号室で行なわれ、宮崎学部長から最近の昭和大学歯学部の現状報告を含めた挨拶と井上教育委員長から学部連携教育や2、3年生の新しいカリキュラム、進級試験・卒業試験などの説明が行われた後、上條学生部長から学年主任・副主任の紹介と指導担任の紹介がありました。その後1号館の会議室や5号館の実習室などに場所を移して、ご父兄とそれぞれの指導担任との個別面談が行われました。例年、歯学部はご父兄の出席率が高く、今年の秋季部会も学生数に対して45.6%と高い割合のご出席をいただき、4学部でトップでした。面談では、学生生活や授業への出席状況、試験の成績などに関して熱心な話し合いがなされました。とくに5、6年生のご父兄からは、臨床実習の状況や卒業試験の成績、歯科医師国家試験への準備、臨床研修のマッチング、将来の進路など様々な質問が出されたり、意見交換が行われたりしました。今年度は医学部、歯学部ともに卒業式と謝恩会が国家試験の合格発表と重なるため、単純に卒業を楽しめないのでは、と心配するご意見もありました。



午後3時30分からは、50周年記念館(7号館)にて医学部、薬学部のご父兄と合流して懇親会が開かれました。おいしい料理と飲み物で、ご父兄と教員間、あるいはご父兄同士の話に花が咲き、和やかな時間が過ぎました。日が暮れる頃、名残惜しいなかで懇親会はお開きになりました。

ご出席頂いたご父兄をはじめとして、指導担任の先生方、学事部の皆様、ありがとうございました。



## 教授総会が100回を迎えました

歯学部長 宮崎 隆

去る10月17日(水)に記念すべき第100回目の「歯学部教授総会」が開催されました。歯学部創設以来、本歯学部では「歯学部教授会」で学務全般を審議してきましたが、学則に基づき、医学部や薬学部に合わせて、平成15年10月1日から歯学部「歯学部教授総会」を置くこととしました。構成員は講座担当教授ですが、本歯学部のすべての教授と准教授が出席することができます。この10年間に歯学部の教育組織や歯科病院の診療組織に変遷がありましたが、すべての教育職員は講座(部門)に所属して教育に従事することになり、現在では16講座(うち4講座が大講座で総計14部門を有する)に再編成されています。教授総会では学生の試験及び評価、教科の編成や教育方法など学務運営に関する重要事項が審議されています。



## 科研費(研究活動スタート支援)の交付が内定しました

研究活動委員会 上條竜太郎

8月31日、日本学術振興会は平成24年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援)の交付内定(新規課題分)を公表しました。本研究費は研究活動をスタート(あるいは再スタート)しようとする者を支援するものであり、前年秋の時点で科研費に応募できなかった者を対象としています。本学の内定者は9名で全員が歯学部です。今後の研究成果に期待致します。内定を受けた研究者は大塚裕忠(口腔解剖学)、照井優一(歯科理工学)、高橋那奈(歯科補綴学)、松本貴志(同)、野中睦美(歯科麻酔科学)、岸上良太(顎口腔疾患制御外科学)、小野美樹(歯科矯正学)、西井浩介(歯周病学)、矢野亜希子(同)です(順不同、敬称略)。

## 平成24年度解剖慰霊祭開催される

口腔解剖学講座 中島 功

平成24年度解剖慰霊祭が10月16日(火)午後2時より、御遺族・来賓・学内関係者・学生の参列のもと、上條講堂においてしめやかに行われました。本年度慰霊された献体者は病理解剖または解剖学実習のための正常解剖に供された方々で、この中には歯学部解剖学実習のために献体された方が23柱含まれています。式には約90名の御遺族ならびに同伴者と、医・歯・薬・保健医療学部の学生が参列しました。今年の歯学部解剖学実習は5月から7月まで行われました。医学・歯学を学ぶためには解剖学実習はなくてはならず、そのためにはご遺体の提供は不可欠です。献体者と御遺族に対して大切なご遺体を解剖させていただいた御恩を深く感じて、お礼をするために歯学部2年生が参列いたしました。

開会の辞に続いて、物故者の御冥福をお祈りして、参列者全員で黙祷が捧げられました。昭和大学を代表して口腔解剖学講座の中村雅典教授が祭文を述べられ、続いて学生代表として歯学部2年の三橋 渉君が弔辞を述べました。片桐学長より参列者に御礼と感謝の気持ちを述べた御挨拶があり、参列者全員が祭壇の前で献花を捧げて、閉会の辞により午後3時に解剖慰霊祭は終了しました。



## インフルエンザワクチン接種について

総合内科学部門 井上 紳

歯科病院インフルエンザワクチン予防接種は11月13日(火)と30日(金)の2回を予定しています。今年は供給に余裕があり希望する学生にもワクチンを接種します。厚生労働省よる東京都のインフルエンザ感染報告では今年9月は40名/週前後でしたが10月に入り10~20名/週と若干減少しています。しかし、インフルエンザによる休校は例年1月上旬以降急増することから、本格的な流行は年明けと予想されます。なお、発症してしまった場合は積極的な抗インフルエンザ薬の早期投与が推奨されています。ノイラミニダーゼ阻害薬「イナビル」単回吸入が主流です。ワクチン接種のほか、規則正しい生活を心がけて今年の冬を乗り切りましょう。

## 平成25年度推薦・編入学試験が実施されました

入試常任委員 山本 松男

11月3日(土)に、平成25年度歯学部、薬学部、保健医療学部の推薦入学試験と歯学部の編入学I期入学試験が旗の台キャンパスで行われました。

推薦入学試験(25名募集)の志願者数は49名(昨年度31名)、編入志願者21名(昨年度8名)、昨年とくらべ大幅に志願者数が増加しました。

当日は一人の欠席者もなく、無事終了しました。合格発表は11月6日(火)午後3時に行われ、推薦入学試験では33名(男14, 女19)が、編入学試験では5名(男4, 女1)が合格しました。志願者数については、平成20, 21年頃の数字に戻ってきたという感想を持ちました。高校訪問をはじめ教職員の皆様のご協力に感謝をいたします。11月25日(日)には入学までの心構えや苦手な科目の学習などについてガイダンスを行い、入学後の大学教育に向けて準備を継続するように指導を行います。

選抜I期・センター利用I期入学試験は1月24日(木)に五反田のTOCで行われます。教職員の皆様にはご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 武重優秀クラブ賞を受賞しました

歯学部スキー部主将 三浦 由実

平成24年11月6日、武重優秀クラブ表彰式において、歯学部スキー部は歯学部長賞を受賞致しました。このような素晴らしい賞を受賞でき、部員一同とても嬉しく思っております。

我々は昨年、全日本歯科学生総合体育大会スキー部門で主幹を任されていましたが、東日本大震災の影響で大会が中止となりました。その為、今年は部員一人一人が様々な思いで大会に挑み、個人・団体共に女子総合優勝と、2年分の練習成果を十分に発揮することができました。

顧問の岡野先生、OB・OGの先生、コーチ、応援してくださった方々に感謝しております。今シーズンも良い結果を残すことができるよう精一杯頑張ります。



## 白菊会連合会総会開催される

口腔解剖学講座 中島 功



白菊会連合会平成24年度総会が11月11日(日)日比谷公会堂にて開催されました。当日は曇天ではありましたが、参加大学8大学12学部から745名が出席され、昭和大学歯学部からも37名の会員さんが参加されました。12時30分に開場となり、各校の解剖学教室員が会員さんをお出迎えました。総会は今回の当番校である、日本大学松戸歯学部の近藤信太郎教授による開会の辞で始まり、次いでこれまでに御献体いただいた物故会員のご冥福を祈り参加者全員で黙祷をささげました。続いて日本大学松戸歯学部長、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の挨拶、献体活動貢献者への感謝状贈呈、会務報告が行われました。続いて次回の当番校である日本歯科大学新潟生命歯学部の影山幾男教授の閉会の辞で総会は終了しました。休憩を挟んだ後、アトラクションとして日本大学芸術学部演劇学科学学生による「日本舞踏」が行われ、15時30分に終了しました。日比谷公会堂は1929年に作られた歴史ある建物ではありますが、エレベーターやエスカレーターなど無く、階段も一段の高さが高い石造りの建物であるため、高齢者の方々にとっては上り下りが大変なのですが、会員さんの中には「この階段が上り下りできるうちは大丈夫」とおっしゃっている方もいらっしゃいました。

## 大学院 Multi Doctor プログラム 履修生の募集

歯学研究科運営委員長 佐藤 裕二

次世代の歯学研究者を育成するために、学部在籍中のカリキュラムに並行して、科目等履修生として、大学院の教育を受け、研究マインドを醸成することを目的に、2年前より始まった制度です。

来年度4年生以上になる学生を対象に、募集を行います。2年間、履修すると、大学院の1年分の単位を取得できます。平成23年度は10名、平成24年度は6名の学生を受け入れました。登録料:3万円、授業料:5万円ですが、2年目以降は免除されることがあります。12月10日の16:30から説明会、3月5日が出願締め切り、3月8日16:30から口頭試問を行います。やる気のある学生の出願を待っています。

## 平成24年度永年勤続者表彰式開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る11月13日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成24年度永年勤続者表彰式が執り行われました。小口勝司理事長から、日本の雇用の形態が変わりつつあるなかで、永年勤続者がそれぞれの立場から大学の発展に長年貢献していただいたことに対する感謝の挨拶がありました。

今年度の表彰対象者は154名で、小口理事長から各勤続年代表者に、表彰状と記念品が授与されました。25年の代表は歯科病院長の岡野教授が務めました。昭和大学宣言に引き続き、校歌を斉唱し、壇上で記念撮影を行いました。

今年度は小児成育歯科学講座の井上教授をはじめ、歯科病院の開設以来勤務された方4名が35年の勤続表彰を受けました。長年の貢献に感謝申し上げます。歯学部関係の表彰者は以下の通りです。(敬称略)今後も益々お元気で活躍されますようお祈り申し上げます。

35年:井上美津子(小児成育歯科学)、日山邦枝(歯科病院歯科衛生士)、山口昌治(歯科病院歯科技工士)、百瀬之男(歯科病院歯科技工士)

25年:玉置幸道(歯科理工学)、岡野友宏(歯科放射線学)、長谷川篤司(総合診療歯科学)、真鍋厚史(美容歯科学)、高橋浩二(口腔リハビリテーション医学)、佐藤昌史(小児成育歯科学)、菅沼岳史(歯科補綴学)、木村幸紀(歯科放射線学)、鍛冶田忠彦(歯科病院歯科技工士)、各務信幸(歯科病院歯科技工士)

15年:中島 功(口腔解剖学)、七田俊晴(高齢者歯科学)、勝部直人(総合診療歯科学)、増田宣子(歯内治療学)、谷 千尋(美容歯科学)、岩佐文則(歯科補綴学)、金子福和(歯科病院診療放射線技師)、小出洋子(歯科病院歯科衛生士)、宇都宮真一(歯科病院歯科技工士)



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

12月 1日(土):昭和歯学会例会

12月 8日(土):大学院 I 期入試

1月19日(土)、20日(日):センター入試

1月24日(木):選抜 I 期、センター利用 I 期入試

1月29日(火):CBT

## IADR ハットン賞候補になりました

大学院3年(歯科補綴学専攻) 鈴木 航

8月27日に東京医科歯科大学にて、2013 IADR Hatton Award の国内二次選考会が行われました。本賞は第10代 IADR 会長の Edward Hatton 博士の功績を称えて設けられた若手研究者を顕彰するための賞であり、各国から選出された最終候補者は2013年3月に行われる第91回 IADR 学術大会(米国シアトル)にて審査を受け、上位2名に Hatton Award が授与されます。今回私は、本賞の IADR 日本部会(JADR)の二次審査を通過し、最終候補者(4名)に選出していただきました。このような名誉ある賞の国内最終候補者に選出していただき、身の引き締まる思いであります。ここまで御助力を頂いた多くの先生方に感謝申し上げますとともに、IADR 本大会で臆すること無く発表し、今後もより一層の精進をして参りたいと思います。



## D5臨床実習用の白衣ワッペンが決まりました

歯学教育研修センター長 長谷川篤司



平成25年度歯学部臨床実習生の白衣に張り付けられるワッペンのデザインが新しくなります。本年度までは各学部独自のデザインを採用しておりましたが、新年度より3学部(医学部、歯学部、薬学部)で統一したデザインとなります。校章入りの丸いワッペンには各学部名

が入り、共用試験合格の証として医学生、歯学生は Student Doctor、薬学生は Student Pharmacist のワッペン使用が認められます。

## 独立行政法人学生支援機構の奨学金貸与について

歯学部学生部長 上條竜太郎

独立行政法人日本学生支援機構は、大学生並びに大学院生を対象とした奨学金を貸与しています。奨学金は大きく分けて第一種(無利息)と第二種(年利3%を上限とする利息付き)に分かれますが、本年度歯学部は、第一種6名(1年次:5名, 2年次以上:1名)、第二種4名(1年次:1名, 2年次以上:3名)が採用となりました。また、大学院歯学研究科では、第一種16名(1年次:12名, 2年次以上:4名)が採用となりました。奨学生の採用は学力基準と家計基準に基づいて判断されます。また、家計急変等により緊急に奨学金の必要が生じた場合は随時申し込むことができます。詳細は学生課にお問い合わせください。

## 北米神経科学学会で発表しました

口腔生理学講座 中村 史朗

10月13日から17日までアメリカのニューオーリンズで開催されました第42回北米神経科学学会(Neuroscience 2012)に参加してまいりました。

北米神経科学学会は、脳・神経系の研究を行っている研究者たちの交流や学術文化発展に寄与することを目的とした学術学会です。脳神経科学の分野では世界最大の学会で、毎年日本を含む全世界から2万5千人を超える研究者が参加しています。

今回当講座から私と井上富雄教授が、「Oral movement」というタイトルの nanosymposium で、これまで得られた最新知見をそれぞれ口頭発表しました。このセッションは、咀嚼、吸綴、発声を含む口腔顎顔面の運動機能を様々な視点からアプローチした内容で、今後の研究を進める上での貴重なアイデアや示唆をいただいた非常に有意義な発表となりました。発表後には、企画者や発表者たちとのディナーが催され、それぞれの研究テーマや研究生活の話で盛り上がり親交を深めることができました。

ニューオーリンズは10月中旬でも非常に温暖な気候で、アメリカ南部の特有な香りが町の所々に感じられました。また、ニューオーリンズ独特のクレオール料理は味、香りとおしく十分に堪能しました。

最後に、今回の発表をサポートしていただいた昭和大学および口腔生理学講座の皆様深く御礼申し上げます。



## 受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・野瀬冬樹(大学院4年, 歯周病学専攻): 10月13日に開催された第56回 日本薬学会関東支部大会にて、優秀発表者賞を受賞しました。
- ・近藤圭祐(スペシャルニーズ口腔医学講座 地域連携歯科学部門): 11月24日に開催された日本小児口腔外科学会にて、学術奨励賞を受賞しました。

## 編集後記

口腔微生物学講座 谷口 誠

昨年の「歯学部だより11月号」を担当してから、早一年が経過しました。思えば一年前の丁度この時期、五十嵐武先生にお会いしたのが最後となりました。寒さが日一日と増して参ります。お風邪など召されませぬようご自愛下さい。末筆ではございますが、原稿を執筆して頂きました皆様心より感謝申し上げます。